

アップルの新「音楽ストリーミングサービス」は定額料金、Beats Music 刷新、初 Android アプリ。ライバル追撃は可能か？



アップルが音楽サービスで新展開を見せています

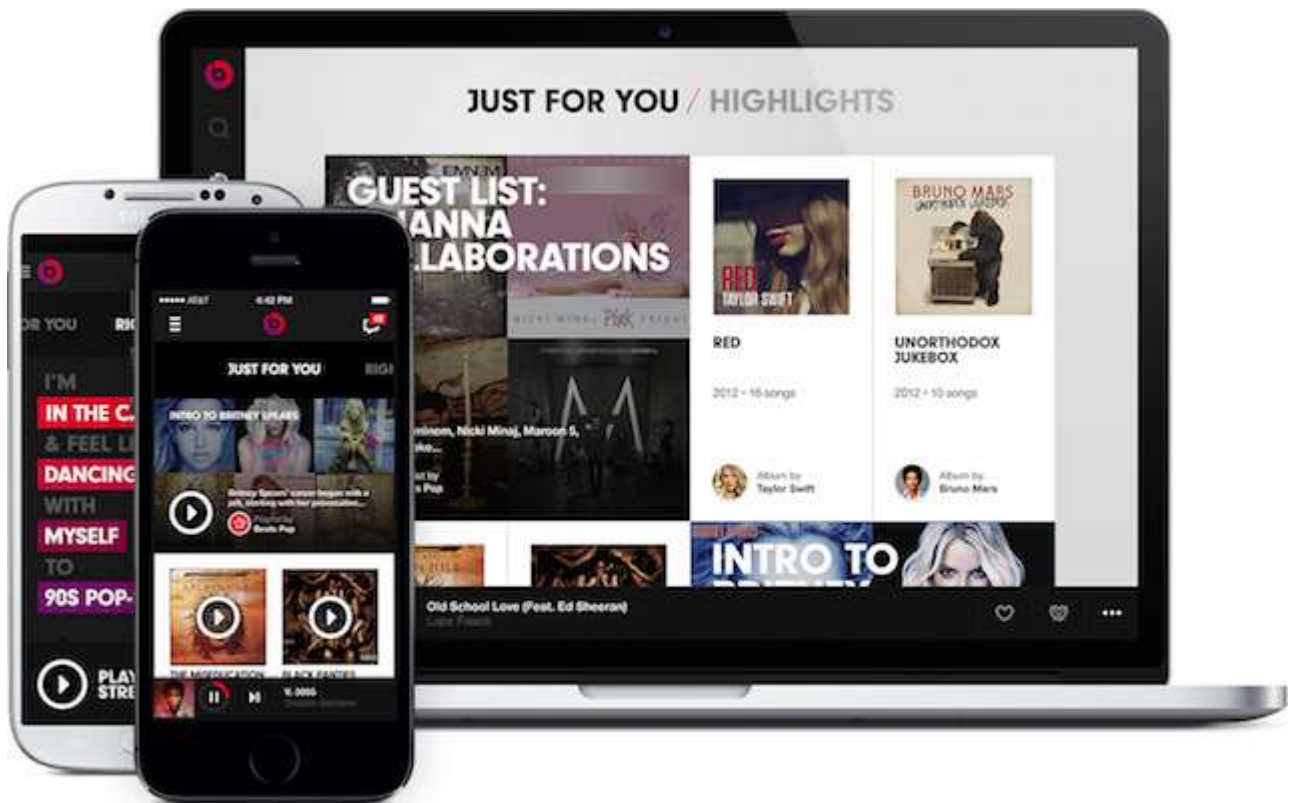
アップルがヘッドフォンビジネスと合わせて定額制音楽ストリーミングサービス「Beats Music」を 3,000 億円で買収して 6 ヶ月以上が経ちました。

これまでアップルが Spotify などの定額制音楽ストリーミングのライバルとなる新しいサービスを開発していると噂が広がっている間にも、U2 のアルバム無料ダウンロードなど新しさを打ち出してきました。ただ実際には、音楽ビジネスの話題はほとんど聞こえてこなかったのが実態です。そして今回ようやくその一部をアップルが明らかにしました。9to5mac がレポートしています。

アップルの新しい定額制音楽ストリーミングサービスは、現状の Beats Music を発展させたものではなく、全く新しいデザインとサービス内容に、Beats の技術とコンテンツを連携させたコラボレーションになるとのこと。サービス名はまだ決定していませんが、このサービスは iOS、iTunes、Apple TV との連動にフォーカスされているそうです。

現在アップルでは iPad、iPhone、iPod Touch 向けのアプリ開発と、Beats の機能を連携させた iTunes のアップデートを開発中だそうです。

機能



新しいサービスはクラウド型音楽ストリーミングに iOS またはコンピューターのローカルライブラリーに保存した曲を連携させた内容になります。ユーザーは新しい検索機能で iTunes ライブラリーの曲だけでなく Beats Music のカタログも検索でき、どちらからも音楽を再生ができるようになります。またユーザーは好きな曲を iOS やコンピューターに保存することも、クラウドに全ての楽曲を保存して再生することが選べるようになります。新サービスでは Beats の強みである、アクティビティやムードに合わせて人がキュレーションしたプレイリストを提供する特徴も受け継ぎます。

さらに以前アップルが「Ping」で失敗したソーシャルネットワーキング機能も、Beats からアップデートさせて提供すると予想されています。

インターフェース・デザイン

一部で大きく賞賛されていた Beats Music の黒と赤のインターフェースは、アップルの iTunes と Music アプリに揃えるようにデザインが刷新される予定です。アプリ上では既存の Beats Music ユーザーが新サービスに移行できるように Apple ID との連携を行い、さらにライブラリーの移行には「iTunes in the Cloud」上のコンテンツとの統合を行います。興味深いことにアップルは iTunes Match、iTunes Radio、iTunes ストア全てを現状のまま残す予定だそうです。

価格帯

アップルは Beats Music と同様にフリーのストリーミングは提供しない予定です。その代わりに、有料プランは競合が提供している月額 9.99 ドルの価格帯より比較的安い月額 7.99 ドルで提供されると情報ソースは伝えています。音楽ストリーミングでは、Spotify も Rdio も Beats Music も Google Play Music All Access もすべて月額 9.99 ドルの有料プランを提供していますが、Beats Music 以外のサービスは無料で聴けるフリープランも提供しています。

アップル初の Android アプリも登場予定

新しい定額制音楽サービスはアップルとして初めて Android へも展開します。Android アプリの開発はアップル社内のエンジニアが行っています。買収した Beats Music はすでに Android アプリもリリースしています。

プロジェクトのキーパーソン

アップルは Beats Music 買収の狙いが音楽ストリーミングサービスを開発できる人材を獲得することと言われてきました。新しいストリーミングサービスのプロジェクトを指揮しているのは、iTunes 担当副社長、ロバート・コンドリック (Robert Kondrk)。アップルに 25 年近く勤務するベテランで、CEO のティム・クックやマーケティング担当上級副社長のフィル・シラーと同年代の一人。

その他には Beats Music の前 CEO イアン・ロジャース、共同創業者でメジャーレーベル「インタースコープ・ゲフィン・A&M」の前 CEO ジミー・アイオヴィン、「ナイン・インチ・ネイルズ」のトレント・レズナーも、アップルの新ストリーミングサービスのプロジェクトには参加しています。

しかし情報によれば、Beats の機能連携は思ったように進んでおらず、「新サービスの開発は酷い状況」とも伝えられています。さらに Beats Music の社員をプロジェクトの中核に置く人員配置にアップル社員も不満を感じているようです。ベテランのアップル社員で、Beats Music 担当上級副社長に任命されたアップルのエンジニアリング部門トップのボビー・ガザ (Bobby Gaza) 氏は 2014 年 12 月にアップルを退職したとのこと。

開始日

またアップル上層部がプロジェクトの方向性を決めきれていないため、サービスのローンチ日程も危なくなっているとも伝えられています。元々の開始日は 2015 年 3 月を予定していました。しかし、6 月に開催するイベント「WWDC」で発表する可能性が高くなってきています。WWDC では 2011 年に「iTunes Match」、2013 年に「iTunes Radio」を発表するなど、新しい音楽サービスを過去にも発表してきました。

初の音楽ストリーミングサービス、初の Android アプリ開発、初の本格的な定額制コンテンツ・サービスなど、初物ばかりのアップルの新音楽サービスで、アップル経営者達のフォーカス次第では、音楽業界以外でも大きな話題を集めるはずです。

業界の最大手アップルが音楽ストリーミングに参入することは、ユーザーの関心がそこにあることを証明しているようなもので、音楽の聴き方が大きく変わる可能性を秘めています。

しかし、音楽ストリーミングでアップルが後発であるという実態は変わらない事実です。2015 年に入って定額制音楽ストリーミングサービスの「Spotify」が有料会員数 1,500 万人突破を発表しました。すでに Spotify を利用している多くのユーザーに、アップルの(有料オンリー野)新サービスに移行させることは、どこまで支持を得られるか分からないウェブサービスでは予想しにくい。

アップルは音楽ストリーミングの分野では「オンリーワン」なポジションではないし、なることも難しい。そうすると、考えられる差別化は買収したもう一つのビジネス、ヘッドフォン事業かもしれません。

「Beats by Dre」ブランドで広く知られたヘッドフォンやオーディオ機器は、iPhone や iPad とのモバイルデバイスと相性が良く、また持ち運びたくなるファッション性の高い製品に通じるデザイン哲学でもアップルと共通するところが多くあります。例えばハイレゾのヘッドフォンにストリーミングが加わる展開も視野に入れているかもしれません。

「音楽サービスだけがすべてではない」。ヘッドフォンが加わることで、ハードウェアとソフトウェアを両側から開発していくことができる、アップルが成功してきた戦略に、新しい音楽サービスも向かっているのかもしれません。